

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）10

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43785

大正
二
年
十
月
一
日
〇
〇
〇
〇

極 秘

2大臣 3次官 4参事	条約局長 参事 参事長	17州力局長 5号車 米北-長
-------------------	-------------------	-----------------------

大臣、マヤ-大使会議 (10月22日午前)

44. 10. 22
米北-長

出席: 大臣、ア州力局長、米北-長、大使、スチー-公使、
ウー-通訳官

1. 聖蹟・NPT
日米聖蹟問題に関し大臣発言 (別途記録)
のりす NPT問題と討議 (別途記録: 同条約)

署名に向け、自民党の支持を取り付中との要旨) 1.
沖縄返還交渉との関連で、^{大田}総理と12は
(大田)

日本の領域 (復帰後の沖縄を含む) に米軍が核
を配置することは NPT と矛盾する と強く信じて

11日旨 極秘の含みで述べ、大使は自民党総理

GA-5

3482

外務省

たす七の旨を角かす決て113=と、沖縄問題と
NPT とのつながらは色々あり、有利にも不利

にも使えること述べた。

2. コエ=4案

大臣は、コエ=4案 = 1案で良い形で持つ事をスチ
ー公使らの努力に感謝すると共に、この際、

一歩を進め、核問題に早く入って欲しいと率直
にお願いと述べた。

大使は、軍部・スチー-両氏の努力に感謝が
修正案上の問題のみはあつたが、核は7424

何より新しいことを申上げる立場になり、と述べた。

3. 在日米軍基地問題 (安保協成報道あり)

(1) 大使は、安保協成後、米軍は在日基地を^{大幅}

GA-6

外務省

削減し、横須賀及び佐世保の海軍補給料能のみを除外しての誤りな報告(注)がみられる。恐らく米側が安保協定で(1)対日コミットメント遂行の必要限度の基地を必要とする(2)にわゆる「アダム・ボルトマン」で74年大統帥がアジア諸国の自助努力と米国のコミットメント遂行を共に強調した(1)海軍力の重要性を説明したことが、空軍力、地上兵力及び核戦力を過少評価にわたり記述が出たことと見られる。

しかしウィラー参考隊長が大団に申上られた如く、~~核戦力~~ 核戦力 - 核抑止力を認める必要がある。

が必要なのである。佐藤総理は日夜この問題に2頭を絞つておられたと語られた。

この点につきよく考えられている。大統帥と総理との会談で、何となくおぼろげに空軍力に少し加えたことも有り得ないとは云えない次第である。(NOT SURE IT MIGHT NOT GO RIGHT DOWN THE WIRE ON WHAT SHOULD BE DONE.) と述べた。

~~これは~~ これは大団の肉題の記述は自分も読んだが内容は全く誤りであると述べた。

(2) 大団より、在日基地の全般的縮減~~は~~日米両国が協力して成功裡に進められ

いすこと、自衛隊の増強に伴い、米国の~~責任~~ 責任がより責任を担うよう(=これは日米の対等関係)の他の国々にも当てはまる)調整が行われる、日米の考え方の利害は並列かつ互恵的であると述べた。

報告が早く発表出来るよう大使の盡力方を要請
せよと、大使は先づこの旨を本国政府に

意見具申してある^{と述べて} ~~その旨を本国政府に~~ ^{述べた}
同時に現行の放射能調査体制には個人的

に批判的であることを明らかにした。

極 秘

大臣 経済局長 平賀局長
号事官

米1長 米2長 ← 指
大臣 二代大臣 谷 栄 (日米経済問題)

44.10.22
米北一長

本 22日午前の会議中 経済問題に内閣12次通
(70/12/22 依り2次 = 依り2次局長)

大臣: 昨日の米例トキマツ: 10-11-11の3長122
取不取のコメントを申上ぐたい。

先が并1長122。
答用申上ぐたい。政府は10月17日の

国米関係合議 12次12 残存輸入制限
品目122と幕布的有意图表明を行なう。

大臣: 其の御決定の内容は自分12次
は7222たい。他の関係は完全自由化に

踏み切るとは同意の取組の取組ですか?

大臣: 7222は御座るに色料はとある通り、1971年
末までには残存輸入制限品目122以下

72222、55品目122列挙し、其の内の7222たい
品目12222を繰り上げ実施に努め、7222年

以降に予定の品目12222を出来る限り自由化
促進の計画を立てるように行くといい。

幕布的意图の表明はこれが決定の内容である
以上1222の努力が奏功し、其を7222行くと

確信する。

大臣: 二つは要約すれば、7222のQRは撤廃を
いふ、といふことと思ふが、其の又1222は?

大臣: 約半分は71年末までには実施し、残り55
出来るまでの品目は71年末までには繰り上げ

実施し、右方残の213分は7124右の15
速かに自由化した、というところである。

右に国内的な手続とか、取替等もあつた。
何月何日自由化実施という発表の段階から

来たか、~~継続~~ 進めたい段階へ行くと
なる。

本問題のポイントは、過般にヤクニ代表の
言っている「残り半分の品目は半永久的に

制限されるのではないか」との懸念に
なると、日本の国策は完全自由化であること
品目の

説明は裏にある。

大使：早速伺うが、右に自由化に2年かかるのか

大臣：農産物のうち簡単に一側を申請すると、唯今
政府は米作の転換を農民に奨励している

か、^{の転換} 自由化の
化すると農民に恐慌を起すこと
である

右の2、品管改良のため補助金を明年度
予算に計上の上、その効果は現れ
てくる

(計外公正競争不可)と

これは1-1/2年後に自由化する、という
である。

大使：補助金は競争力を増やす農民に
PUSS した方がよくないか?

大臣：経済問題ある半面、農民の自由化に
する理解と納得を得るという上、

PR上の問題も大き、76-77-78-79
に7127 政府は休むから自由化(

-1/2年先)のつもりだが、農民には
外米輸入の恐怖心から強い反動が

越えたいという感じに眼目がある。

大臣：また米国の中小農産業者の気持ち
裏面（2） EMOTIONALな問題であること。

よく分るが、米国の日本品への制限に
いかに、日本が^{外貨}輸入制限を課す

というが、何となく片手落ちの印象がある。
と云う点、選考と農産品肉類の関税削減

大臣：率直にいうとこれは自民党にとり余り有利
ではない問題である。農村人口が急減

に全人口の2割を占めるが、流出
人口が概ね組織労働力に相当する

革新政党支持は^{カマツ}傾向が、殊
つて農民を7割とせしめ、高米

價政策も、生産過剰と見做る政府の

面から行ったり、米穀年度から生産者
米価格差と云う、自民党としては一大決心

のせいに政策転換を行なった。と云う
農民には作付転換を奨励した事だ

その矢先に「アメリカの政勢にたつて農村が
壊される」という感情が農民に行渡り

ことと見ても避けるべき次第である。

大臣：またPRの問題で、今朝の新聞に

と云う点で、農林省や通産省筋からまた
例にたつて一方の弁言で、恰も米

国の日本とUNFAIRに攻撃した事だ
と云う。日本の米輸出の着地は

広い視野に立つて弁言はあり。通産・
農林両大臣の「米穀」姿勢は政治上

EMOTIONALISM を厭うが、私は毎日の新聞を読みながら、読んできた。真の

経済的論議の枠を外れ、感傷論は加えて日米両政府と対峙して

行く危険がある。
大臣：卒直な意見交換は極めて有用であるが、米側にも「通商省がある（各）

国）限り自由の貿易、輸入の自由化は

不可能である、という感傷論を述べたと言っている向もあり、これは困る。と、

我々外交の衝に当る者は、これらとよく能を取り調整に行くことが重

務であり、心配はしても自信を持って打論に行かぬ方がよい。

次はトランプ、10-11-のオコ、大臣の(関税)問題に71124、若し、
(不慮の事故がある)

福田会談が実現して、たまたま、より結果が出たであろうと思われ

である。卒直に言って、関税をゼロにしたことは、日米以外のオコ(米と22.4%、(肉と22.0%の菜種))
であった、無理である。(しかし私と124
米側の10-11-も同じなことをあり、

福田大蔵大臣と接触し、何か前進を図りたいと尋ねた。

大臣：米中の11-7-1-副大統領は出身州ミネソタの関税オコ、

大蔵大臣を祀りており、私と124誰に会ったのか、一審エカ、目下予之中

である。重要なポイントには 米上下
両院の交渉に 沖縄返還を支持

する理由として 自州農産品 (15%以下
の1/3 運出 大豆) の対日

輸出事理由に等しき者がある、という
ことである。関税以外に 大豆の輸入に
関するものか?

大臣: 27年か 関税政策上のバランスの
問題があるから、それだけ念頭に

福田蔵相と話し合ったとき、^{関税}「色」を
けきりにした、と云われた。

大臣: ^{輸入税}すなわち大豆の輸入税はどうか?

大臣: 然り、米国の産品を自由にする

訳は行かない、しかし米側の
10-10-11 を見る限り、これは決

要請があることは知っているが、^色 NOMINAL LEVELの税率に
ついては

これは正しいかと思つていた。
大臣: QRも大豆も繊維も輸入担保金

も同じで単一の方向性、即ち米国の対日
輸入が45億米、輸出が30億米、
という。これは色で色は色(色)

こと、大に一部分である。農林大臣にも
申し合ったが、米国の何を示した、例え

大豆の輸出が増える、ということは極めて有用
である。

大臣: 大豆の輸入増は自国の利益に問題ではな
い。これは農業政策の問題である。左に

関税制度の問題として、関税の色は
課には行かない。

次にオーストリアのNTBの問題に解決した。

10月20日に輸入担保率を一挙に一律

1%といた最低のものと、直ちに実施した。

従来 5% とか 3.5% と不色があったが、

米国の要請により、次の如く引下げたので、

日本としては非常な誠意を見せた次第で

ある。輸入担保金はGATT違反という

考えが米国にあるように、自分も認め

技術的右突はたか、GATT違反ではない

と信じており、またこれは通商と見なされる

と思う。

右が標準外決済の問題に付いては

至滴の実務者同志で検討中である。

従って御申越しのオーストリアは相当

であったことを御理解願いたい。

大使：大臣の広い視野に立って御努力を改めて

感謝する。しかし右と左 1% といたことも

米実業家を憤慨地とした担保金を降す

ことは、それによって起る IRRITATION が

1% の実際の有用性を上廻るのでないか、

と私に疑った。自分は専門家ではない

ないし、専門家同志で検討しては

喜ばしい。しかしこれにせよ總理が

ニヤン大統領に ASSURE された問題の

一つではないかと思う。

大臣：以上がトキエフ、10-11-12 間の取不取の中心

である。

大使：卒に誠意溢れた御好意を深謝する(3)

極 秘

大 臣
次 官

アヤノ大臣
多事官
朱北一長

国連局長 ← 主
官

大臣、アヤノ大臣会議 (NPT)

44. 10. 22

朱北一長

1. 本22日午前の本件会議においし、大臣は
NPTに因り、同条約署名の時村外長と

考え、その方向に向い、自民党の支持を得る
べき内容、工作中に、大體成功を期して

113と思ふ水、先例も調停時期に於ては
總理と自分とは一長に及ぶ筈である

体制のもとに總理訪米を行なうべきである

2. 次いで大臣より自民党内の異論は主として

核の平和利用にあり、日本が核保有国

GA-5

外務省

またはユ-ライム諸国から何らかの差別待遇
を蒙る結果となる恐れがあるか、といふ

其の甚くもので、これらより NPTの確保
措置の発動に付、米國と協議・確認

して行くべきことと明らかにして、と説明した。
3. 自分としては、日本の平和主義を以て、核拡散
(大臣所)

に對し、絶対反対の本意は当然であり、それ
を主張する位であるといふのが、私の立場で

結論としては、自民党が全負一致で
これに賛成して行くものと思ふと述べて

GA-6

外務省

秘密表示(捺印)
極秘
無期限
部の内
号

館長直掛

部数指示	発信用	執務用	備考
主信	/	0	/
付		27	
属			

発送日 昭和44年10月28日
処理日
発信タイプ 秘書

文書課長 公信案 (分類) 昭和44年10月27日

公信番号 1435 号 公信日付 昭和44年10月27日

大目	主管	起案 昭和44年10月24日
政務次官	アメリカ局長	
事務次官	参事官	
外務審議官	北米才一課長	
外務審議官		起案者 千尋 電話番号 443
官房長		

協議先

受信者 在米 下田大使	発信者 夏知大臣
----------------	-------------

写送付先 (希望発送日) 月 日

件名 沖縄問題会談記録送付

GA-2 27 3 外務省 回覧番号 3485

米101才 1435号
昭和44年10月27日

在米大使殿

外務大臣

沖縄問題会談記録送付
10月22日、本大臣、マヤ-大使会談
記録写/部別添送付す。
以上、本件内容は外部に話し及ぶに付
番1211292、会920。

付属添付

GA-4 外務省

4. アメリカ局ブリーフ(22日)

○アイチ・マイヤー会談

(局長) (本日午前、定例の会談が本省で行なわれたが) コミュニケのあちこちのし上げをしていく段階で、特に新しい進展はない。また、去る15日の安保協議の話が出て、四大国より「マクソン大統領のグアム演説にみられるとおり、アメリカの今の考え方は関係国の自助の努力を期待するとともに、各国との約束は必ず守るとの二面があると強調し、米軍が第7艦隊の補給基地としてマスコカとサセホだけを頼って日本から引きあげる体制にあるという報道が多かったが、これは米の考えではない」との説明があつた。

(問) 総じて進展はあつたのか。

(答) 実質的進展はない。し上げという時期である。

(問) 核についての米側の新しい反応は。

(答) ない。

(問) ベトナムへの出陣については。

(答) 最終段階に向かつてコミュニケのし上げをしている段階で特に今いうことはない。

(問) オキナワについてはあと一週間でまとまるか。

(答) あと三週間のしんぼうだが一週間ではずまないだろう。